

東海

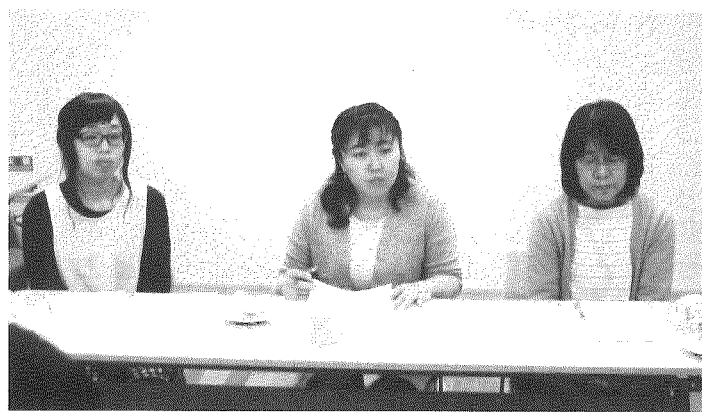
No.3166

18. 1. 4

国土交通労働組合
東海建設支部
教育宣伝部

組合は組合員一人ひとりのために!

楽しく活動、大変だからこそ 「達成感」「連帯感」感じてほしい



左：田中執行委員、中：是枝委員長、右：渡辺前委員長

民主的な市民運動から 生まれた「ひよこ保育園」

【おおばこ】

私たちの職場は元々、母親たちの民主的な運動の中から生まれてきた保育園と、というのが一般的な保育園とは違うと思うんですね。

労働組合って「楽しい」そんな活動をしている組合が三重県四日市市にあります。「ひよこ会労組おおばこ」。「乳児保育の実現」を求める市民運動により実現した保育園の労働組合です。東海建設支部でも楽しく労働運動を進めるため、「ひよこ会労組おおばこ」の皆さん（是枝委員長、渡辺前委員長、田中執行委員）と対談を行いました。

職場の課題は みんな力で力を 合わせて解決!

ひよこ会の略歴

1967年10月	「四日市乳児保育所をつくる会」発足
1968年 4月	小古曾にて乳児共同保育所開所
1969年 2月	西町へ移転
1977年 5月	日永へ移転
1978年 4月	保育時間を延長
1979年 4月	パート時間保育開始
1982年 4月	三歳児保育開始
1983年10月	日永新園舎竣工
1985年 4月	保育時間を延長
1987年 4月	四・五歳児保育開始
1987年 7月	プール完成
1987年11月	「認可推進委員会」発足
1988年 2月	「ひよこ保育園後援会」発足
1988年10月	認可基準に合わせ園舎増築
1989年 4月	社会福祉法人ひよこ会 ひよこ保育園開園
1991年 4月	「東日野新園舎(現ひよこ保育園)建設委員会」発足
1997年 4月	東日野新園舎(現ひよこ保育園)開園 一時保育、障害児保育、子育て支援事業開始
2003年 4月	「将来構想検討委員会」発足
2004年 4月	「第二園(こっこ保育園)建設委員会」発足
2007年 4月	第二園(こっこ保育園)開園
2015年 3月	「将来構想検討委員会」発足
2016年 4月	「ひよこ会第三園(こどり保育園)建設委員会」発足
2017年 4月	第三園(こどり保育園)園児受け入れ (ひよこ、こっこ両園にて保育)
2017年 6月	第三園(こどり保育園)開園

働くお母さん、お父さんたちが、産休明けから子どもを預けたい、長い時間働ける保育園をつくりたいという思いから生まれ、認可運動等により「ひよこ保育園」が誕生しました(下表参照)。保育園が誕生したとき四日市市職労の方々が中心になったというもあり、民主的な職場とは「こうあるべきだ」みたいなビジョンから、就労規則、理事会運営、運営協議会のルールなどがつくられ、「組合が絶対大事」というベースがつくられたんです。みんなの運動と知恵と力が集まって出来たところが四日市のひよこ保育園なんです。だから当然のごとく認可と同時に組合も誕生しました。

「民主的な運営とはいえ、自分たちの労働条件を守る」

また、労働組合だけじゃなく、職員、親、保育研究者など保育に関心のある人たちがいるような運動や研究をする全国保育団体連絡会の運動も一緒にやっています。そういう意味では組合だけの視点ではなく、保育園そのものが運動体みたいな形で生まれてきたというのが特徴だと思います。

教育方針なんかも保育園総会でみんなで決めてやっていく、みんなで手をつなぎ合っていくことを園全体が大事にし、親と職員が「協働」の精神で保育園をつくる

り、良くしていくためにたかかわなければいけない」ってことで、先輩たちが組合をつくってくれたことは大きなベースだと思えます。

また、労働組合だけじゃなく、職員、親、保育研究者など保育に関心のある人たちがいるような運動や研究をする全国保育団体連絡会の運動も一緒にやっています。そういう意味では組合だけの視点ではなく、保育園そのものが運動体みたいな形で生まれてきたというのが特徴だと思います。

教育方針なんかも保育園総会でみんなで決めてやっていく、みんなで手をつなぎ合っていくことを園全体が大事にし、親と職員が「協働」の精神で保育園をつくる



左から深見委員長、坂井書記次長、家田執行委員、佐々木執行委員

の係で、っていうのはすごく不合理な状態です。組合活動以外でも、夜の会議も多いです。給料は安いのに身を粉にして働かなければいけない、仕事以外のこともしなければいけない。と言うことで、かなり矛盾をきたしているんです。逆に、「組合しとってもしとらんくってあまり変わらないやん」っていうことな

組織的には、ほぼ全員組合員です。臨時職員、パートの一部も組合に入っているという状況が続いているんです。だからわりと簡単に入ってくれます。「みんなも入っているし、いろんな出会いもあるからみんなやっていきましよう」

て言えば、みんな加入してくれませう。

以前は、別の上部団体に加盟していましたが、地方本部が名古屋にあり、運動も名古屋中心で行われていたこともあり「組合っておもしろくないな」「やりがないなって」思っていました。そこで、北勢労連の芳野さんに相談し、自治労連に入ることを決めたのが転機だったんです。運動も三重中心の内容になり、組合費は半分以上手元に残りました。そうなるのと、「いろんなこと出来そうじゃない？」ってことで、学習会も講師を呼べるし、「もっと交流会にもお金使おうよ」ってことになって、楽しい取り組みや魅力的な活動が出来ようになったんです。活動費が出せるようになります。組合活動の他、業務外活動にも出すことで、一人数千円単位で半期毎にカンバックしてくる。それを「いつ賣うのが嬉しいかな？」って考えて、年末の忘年会で返す。何となく臨時収入が入った気分が嬉しくなると年末を迎える。些細なことですけど、励みになります。

私たちがそんな素敵な運動が出来ているわけじゃないと思うんですけど、お金があることで、執行委員会

で「何がしたい？」って聞くと、いろんなアイデアが出て、「それじゃやってみよう」って言ってあげられるし、若い子が「今年は夏祭りみたいなことがしたい」って言うのと「やろう。やろう」って声があがって、執行委員が手分けして準備し、その材料費なんかも組合が負担し、子どもたちに来てもらって、無料でたこ焼きや綿菓子を食べ、ゲームしてもらおう。こちらが「いいよ」って言えるのも嬉しいし、執行委員やっていたも苦になりにくくなったって思っています。

組合の会議が定期的にもてるわけでもないし、組合会議の参加率が良いわけでもないけど、学習したり、議論できたりとか。

「身近なことで困っていること無い？」ってアンケートとると、「あそこがどうだ、ここがどうだ」といって出ているから、組合として解決できる問題とそうじゃなくても「こうやって工夫していけばいいんだよ」ってアドバイスできる問題もあるのをそれを整理して、要望書をまとめていきます。来週、久しぶりにみんなで会議をしてそれを要望として提出していかうかなって思っているんです。

自分が楽しく無ければみんなも面白くない

やってっていることは皆さんと同じ様なことなんですけど、自分が楽しく無ければみんなも面白くないし、委員長自らが楽しいことを「斬新、奇抜なアイデアでもいいから出来ることやろうよ」っていうことを提案してきたかな？って考えたんなんです。何でも否定せず、何でもやれることはやろうって、楽しいことにはみんなも参加してくれるし、「楽しく考える」ってことがすごい楽しいって思っています。

【支部】

私たちの組合と何が違うか考えると、同じ様なことをしていても、おおばこさんは、「自分たちのことが出来る」、「やりたいことをやっている」ところが、こちらのメンバーは「義務感でやっている」って感じているところかなって思っています。そこを克服するのは考え方なんじゃないかなって感じています。

【おおばこ】

「自分がやりたいことをやる」って言うのがすごい大事なことで、「組合会議をやるのにどうやって集ま

るかかな？」って、事から話すすんです。何時から何時までお茶とお菓子があって語り合えるような場所をつくって、それに来ても組合活動って感じて組合のハードルをすごくさげちゃうとか。「行ったらなんか楽しいし、友達になったし、いい話が聞けたね」って、思う方が得なんじゃないかとか。発想を変えて、来やすい会議、雰囲気はどうやってつくるかってところに心血を注ぐって言うのはすごい大事ななって思っています。

縦組織があるからこそ自ら出来ないことが出来る

自治労連で運動することになって、サマーセミナーとかやろうとなると、「おおばこさんはこの役割やって」って要請がきますよね。そうしたら若い子たちが、そこで力を発揮する場所がある。「おおばこ」だけではそれは出来ないし、縦組織の組合があるからこそです。自分たちだけでお茶を飲んで楽しんでやっていけばいいってことではなく、自分たちで出来ないことは学習を含めて組合の方と交流したり、他の組合、自治労連の中、北勢労連、みえ労連の中、つながりが大事だと思っています。北勢労連の芳野さんが上

手だなと思うのは、「あんなところは、ものすごく頑張ってる」って、ここに来て話し、組合を盛り立ててくれるんです。「話が上手だから」とか言ってる。と「役員やりたいな」って感じるし、育ててもらっているんだなって思いますがどね。

組合を通して「連帯感」「達成感」感じてほしい

【支部】

国交労組は、全国組織で東京に本部、名古屋に支部があり、各職場に分会が点在しているんですけど、本部の運動は、主軸が対政府となりまして。支部・分会では、職場の要求、話題などを組織し、運動に発展させていく必要があるんですけど、なかなかうまくいっていないんです。

【おおばこ】

組合は、一人一人の組合員のためにあるわけだから、その人たちが満足をしなかったら、組合員が増えていかないじゃないですか？特に今の時代って。そこに目を据えないと、組合って先細りします。がんばる人だけが入るところになっちゃうと、組合の存在意義っていうのが無くなるし、全国組織の力が弱くなれば、政

府・国に対してしっかりと要求を突きつける本来の闘いが出来なくなる。そこはやっぱり大事なところなんじゃないかなって思うんですよ。

全国一斉にならなくてもどこかで、いい例を作っていけばいいと思うんです。「毎日お茶を飲みにおいで」

っていうことから始めて、若い子たちがふらっと来てポロツと悩みを言って帰って行く、それで「親身になって、必ず聞いてくれる人がいるんや」って感じてもらう、組合員を増やし、楽しい活動が展開されて行くことが一つでも出来たら、すごい、いい見本になっていくって思うんですよ。

若い人ほど悩みを抱えていると思うから、その悩みに応えていく、そして「君の力が必要なんやよ」ってことを身近な先輩から言うって、「その力が組合の大きな力につながるっていくんや」ってことを信頼関係をつくりながら話していかないといけないと思います。理屈とか理論では解るけど

「現実はどうなんや」って今の若い子は現実をシビアに持っているんじゃないかなって思うんです。如何に自分のために親身になってくれるかとか、「ああ、なるほどな」って言う意見を

聞かせてくれるかで信頼関係は全然違ってくるし、それが組合なんやっていうところが、後からでも解れば、きつと組合員が増えていくと思うんですよ。

自分は学生時代に学生運動したりして、その中で連帯感とか達成感を培ってきたんですよ。一人では出来ない、みんなややるからこそ楽しかった思い出があるのね。でも今、そういう組織が全部壊滅的になって、よくあってサークルかな？

ひよこ会の保育園に来た保育士さんたちは、仲間と一緒にやるのがどんなに素敵なことかって、改めて経験するんです。親たちとか職員たちと「めっちゃもうちょうたくたやん」って言いながらやってきたことが、「すごい楽しかったね」って残るんですよ。やっぱり仲間ってすごい大事やなって。自分の好きな人だけで

ラインやったり、ママ友になるとか、友達とやってるだけでは得られない高揚感が得られるし、そう言うのって経験していかなかったら解らないから、今の若い人たちこそ組合を通じてその連帯感とか、人ってすごいな、いいなって思いを是非つなげていってほしいなと思うんですよ。

ワーを是非、引き出してほしいですよ。若い子は、出し方が解らないだけなんですよ。

【佐々木】



今、聞かせていただく「連帯感」って確かにありました。高卒なので大学のサークルとか解らないんですけど、文化祭とか、クラスとか部活とかで「わー」と盛り上がる。その感覚はあったんですけど、職場に入ってしまったと、異動も頻繁にあるので、なかなか出来にくいと思うんです。

【家田】



職場が広範にあり、少数が点在し、常に一緒にいられない。ばらけていると、楽しい事をやるうにも、ど

ここに集まらなければいけない。自分が持っている仕事と組合活動のどっちを優先するって言うのも考えなければいけない。昔の諸先輩方は、組合の活動だと言うと「行ってこい」って盛り上げてくれたと思うんです。先ほどおっしゃったベースが有ったと思うんですけど、今の組合はベースが無くなってきていると思うんです。そこが無いと、出来ないわけでは無いんですけど、厳しいのかなって思うんです。逃げてるようではないんですけど。

一度、ベースを作り直せばと思うんですけど、自分もその作り方が全く解らなくて一年経っちゃったって感じなんです。青年交流集会とかで他の職場の青年そういう話をしても、「盛り上げよう」はあるんですけどそこから一歩踏み出すぞってというのが「解らないよね」って話で何となく収束してしまうのが、問題だなんて思っているんです。

【おおばこ】

みんなが、みんながなんて思わずに、集まれるメンバーが、「よっしゃこれやっって楽しもや」って言うことをまずやってみる。「めっちゃ楽しい」と思うと、本気で誘えるじゃないです

か。みんなのことを思いながらって、中途半端になっ
てしまふんじゃないかな。
自分がどう思うか？どうし
たらやりたいなあって思う
か？自分を大事に考えてい
くっていうのも大事ななの
かって思いますね。

**若い人が頑張っている事は希望
他人の事を考え様とする事は宝**

もう一つは公務員はすこ
い叩かれて、すごい人減ら
しされて厳しいですよ。
市職労の保育士さんでも顔
色が無いですもん。若い子
が生き生きと保育を出来る
環境がはつきり言ってる無
いです。それは本当に気の毒。
園長の言うことを聞かざる
を得ない。規制が多く、ケ
ガをさせたらあかん。衛生
も気をつけなあかん。保育
の楽しさなんて無いって感
じなんですよね。

だから、公務員って非常
に厳しいだろうなって思う
んですよね。その中でも若
い人たちが頑張っている事
そのものが、私は希望やな
って思うんです。「何かや
らないかん」って思ってい
るのは素敵な事だし、自分
のことだけじゃなくて組合
に入って、他の人の事も考
えようとしている事は、宝
やと思います。その若い人
たちが、組合員だけでも良
いから楽しく過ごす、有意

義に過ごせる事をして、そ
れに自信をもって、組合に
入っていない人たちに声を
かけられる様になつたら凄
いことやな。って思うし、
希望ですよ。公務員の組合
の中での若い人ってという
のは、嬉しいですよ。

【支部】

確かにこういう青年がい
るんで、私たちおっさんで
も頑張れるんです。

**良いものを目指して
みんなと一緒に大きくなれる**

【おおばこ】

私たちは給料はめっちゃ
安いけど、職場としては恵
まれているというか、良い
ものを目指して、それをや
って、認められて、みんな
と一緒に自分も人として大
きくなれるっていうか。で
も、どちらかをとるとしたら
こっちかって感じになつて
ますからね。

皆さん、本当に大変だと
思うんですけど、やっても
らっている事は国には無く
てはならない仕事をしても
らっていると思うので、そ
こに誇りをもって、組合を
大きくしたいという気持ち
に誇りをもってほしいで
す。でも、一番大事なことは
仕組みをキチンと知るこ
とだと思つたんです。仕組み
を知ること自信になり、

若い人たちの力になると思
うんですけどね。

【支部】

こういう保育園だと親御
さん子どもを預けたいと
いう気持ちになりますよ
ね。

【おおばこ】

おかげさまで。ひよこ会
の保育園の希望が多いので
申し訳ないけど入園できな
いこともあるんですよ。
私たちは、親も人として大
事、子どもも人として大
事って思っているんです。

【支部】

親の代わりをしてもらっ
ているんで、保育園って。

【おおばこ】

ここでは、若い保育士は、
子どもたちとはっちゃけて
遊んでいるし、結婚して子
育て経験のある保育士は、
同じ様な悩みを持つ母親の
悩みを一緒に抱えてあげた
り、相談に乗れる関係にな
りたいなって思っているん
です。子どもたちも自由に
伸び伸びと過ごしていま
す。

**仕組みを知ることが大事
自信にない若い人たちのために**

【支部】

保育園って、補助金で運

営されているんですよ。

【おおばこ】

そうですね。運営費の中
に補助金が入っています。
国、県、市の補助金と保護
者の保育料からなつてお
り、市から運営費として配
布してくれます。なので「こ
の保護者はお金払ってない
から」とかは無く、直接的
に契約関係にないので純粋
に、一律に保育出来るん
です。認可されているって
いうのが大きいんです。
今、認定こども園ってい
うのに法律が変わってきて
いているんですが、認定こ
ども園は「保育所」ではない
んですよ。保育園のように
みえるけど、法律も違いま
す。巧妙なんです。仕組み
を変えることによって、国
が(支出を)切っちゃう。
国が補助金を出さないって
ことになるんです。

【支部】

幼稚園が文科省、保育園
が厚労省でしたよね。

【おおばこ】

その二つをひつつけちゃ
ったんですよ。自治体も
てんやわんやで、ちゃんと
準備が整っていないのにや
っちゃったんですね。自治
体も言ってますよね。「仕
組み変えて混乱させただけ

や」って。目的はそれによ
って、国の福祉の予算を削
るってことです。今は出し
ているけど、補助金はいつ
でも切れるんです。ばっさ
り切つて、「自由経営して
ください」って。儲からな
いと保育園運営も出来ない
って事なんです。

**行き詰まったとき「えーの、えーの」
って言うってあげる人が何人かいると**

【支部】

三〇年前は、青年部があ
って、レクリエーション中
心の活動を経て、基本組織
の役員になっていったん
ですが、今はいきなり基本組
織に組み込まれちゃうん
で、息がつかまっちゃうの
もしれません。みんな結構
堅いんですよ。

【おおばこ】

みんなまじめなんです
よ。まじめにやれって言わ
なくてもまじめなんだか
ら、誰かが揺さぶってあげ
ないと。行き詰まってしまう
ので、「えーの、えーの」
っていつてあげる人が何人
かいると良いですよ。

【支部】

以前は、先輩が怖かった
ですからね。初めて書記長
やったときなんかは執行委
員会の毎に副委員長から怒
られていましたから。

【おおばこ】

若い人たちがいっぱいいて自分たちでワイワイガヤガヤやれる時代はそういう組織形態でたぶん良いと思うんだけど、今はみんながちゃんと下に気を配って若い人たちを盛り上げて行って、若い人たちがやる気を持ってやっていくっていうのがあると思うので。

「感謝のメッセージ」つながっている・やいがいに

【支部】 保護者と一緒に活動する場があるのは良いですね。

【おおばこ】
そうですね。

「こどり保育園」は今年の六月に開園したんですけど、四〜五月は「ひよこ保育園」と「こっこ保育園」に分かれて保育していたんですよ。二ヶ月間大変かなって思ったんですけど、それぞれの職員は今までの園で保育していたので、新しい子どもたちと今までの新入園児と同じように受け入れて、その中で伸び伸びと過ごせたので良い二ヶ月間だったなって感じています。子どもたちも先輩を見よう見まねで二ヶ月過ごして、お母さんたちもその雰囲気ですごく安心だったみたい

いで、感謝のメッセージをそれぞれに保育園にいただきましました。それがつながっていきつつあるのかな。やりがいになってますね。

【支部】

国土交通省の仕事って、反発はあっても、感謝されるのが少ないので。

みんなでワイワイガヤガヤ言い合える場を組合の中に

【おおばこ】
いるんだけど届かないだけですよ。

公立の保育園では以前、地域の保育園をめざし、地域を回って、子どもがいる家庭等を訪問したりしてアンケートを集約したんです。そういう経験が四日市では有名なんです。

組合活動の中で、住民とつながるような楽しいイベントを企画してみるのも良いかもしれないね。

アイデアをみんなで出してみると案外おもしろい、とにかくハチャメチャでも良いからアイデア大会でも良いし、これなら出来るかも、みたいなものを組合主催で出来ると「これならやりがいあるかも」ってなるかも。仕事が増えるかもしれないけど、人とつながれるような、何かを考えられるといいのかなって思いま

す。

仕事もつながることが出来る。「組合って楽しいんやな」、「仕事で実現できないことがここでは出来るんだな」みたいなことがあったりとか、アイデアを自由に発想してみる。発想するだけでも楽しいですよ。イメージを膨らませていくと楽しくなってくるから。やれなかったとしてもね。みんなでワイワイガヤガヤ言い合える場を組合の中につくってあげれば執行委員会そのものが楽しいものになっていくし、楽しく無いとだめなんじゃないかなって思います。

夢はもう場所を提供して一分間スピーチで会議の雰囲気も

【支部】 私たちは、若者に夢を与えていないんですね。

【おおばこ】

夢はもうありますよ。場所は提供して。「自分は公務員ではなくて一人の人間なんや」みたいな気持ちで組合活動が出来ると。自分がかうやったらどう思う。住民の立場だったらどう思う。みたいな発想を、今の仕事の中の発想から外して、それが良い知恵になって、イメージが湧いてくることもあるんじゃないか

な。そうすると、「あー、楽しかった」って思ったりするんじゃないですか。

私たちが当然まじめなことでも決めなければならぬこともあるんやけど、まず、時間がある時は、一分間スピーチで「自分の私生活どう」「仕事どう」みたいなこと話してもらおうんです。なかなか人数が増えるて出来ないですけど、若い人だけ集めたときに、悩みでも良いし、彼女のことも良いし、今一番楽しいことは何？とか一言ずつ。会議の雰囲気も変わるんです。フワフワとリラックスして、会議を進めると、「あー、重かった」では終わらなくて、あの人こんな人なんだな、って人間性が見えたりするし、楽しいですよ。楽しくしないとやっていけませんよ。

【支部】

自分が労働組合の役員を経験してきて思っていたのが、楽しく無い職場環境はおかしいと思ってるっていいんです。そうじゃないと夢がわかないし、やる気も起こらないし、そういうところ働きたくないじゃないですか。でも、労働組合が今、そうなっちゃっているんです。自分たちが求

めていた職場にしようと思っていたのが、今の職場環境に慣らされちゃって。

【おおばこ】

厳しさもありますからね。何とかそれをしなくちゃって思う思いもあると思うんですけど、そういうときこそ出来る事からリラックスしていきつつあるか。職場環境をガラッと変えられないけど、ここに来たらホッとすると、ここに来ない場所になっていく。じゃないと時間が無駄じゃないですか。忙しい中で集まっても、同じ会議を一時間するでも、楽しく無かったら足が向かないし。まずは自分が心地よかったり、楽しかったりするって事はすごく大事な。あとは、芳野さんもよく言うんですけど「必要なことを必要なだけ、短く」って、そういうメリハリがあったりとか。それはそれで素敵かなって思うんです。「最近どうなの」みたいなことを聞いて半分くらい時間が過ぎて腹抱えて笑ったりとか、おもしろいやつやなあってなり、後は難しい話をして、「楽しかったな」って。そういう工夫って大事と違うんです。実際、若い人はどう感じたのかな。

まずは楽しいことが
結集していくのが若い世代の悩み

【田中さん】



最初は、言われて組合に入って、組合大会も行ってないとかだったんですけど、ある時、自治労連の執行委員にならないかって誘われたんです。全労連の大会の時、青年部の方と話す機会があつて、愛労連の方だったんですけど、自分より若いのにすごい知識もあるし、組合に対する意識が強く衝撃を受け、もっと話聞きたいと思いました。その後、青年部サマーセミナーに関わらせてもらったんですけど、刺激を受けて、三重県でもやりたいと思つて、三重のセミナー懇談会を立ち上げたんですよ。でも、なかなか難しいって言うか、忙しい中で、仕事と組合は別だから、どうしても集まってくれないんだろって思つて。楽しく無いといけ無い、学習してもこやへん、まず楽しいことか

かポルダリングとかをやりながら、ちょいちょい集まってくれるようになったんですけど、なかなか継続はしなくて。私の結婚とかもありなかなか動け無くて、三重も少人数の集団が、

ポツポツあつて、なかなか結集しにくいんですけど、最初は職場の若い子連れて愛知の企画とか、スノボとかに行つてみたり、組合の取っつきにくさを楽しさで引きつけるように、他でやっていると出かけていって楽しさを感じてもらつて三重県にも楽しいところが出来て広がっていいいなって思つてやっています。まず楽しさからつながりを広げていくことから始めていく必要があると感じて、地域労連の役員をやっているんですけど、つながりが出来るとカンパにも協力してくれるし、横のつながりが必要だと思つています。岐阜とかにも岐阜県労連の方にもポルダリングに連れて行つてもらつていたりとかして、地域でも青年が盛り上がりつついて、そこら辺のつながりもあり縦と横の広がりも大事だなんて思っています。なかなか、結集しにくいのが若い世代の悩みだなんて思っています。

【支部】

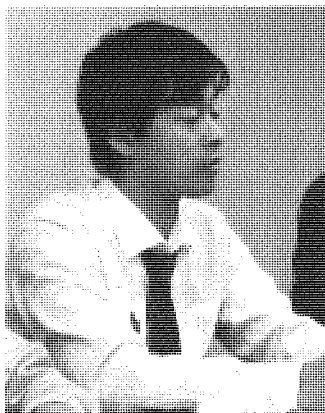
田中さんがポルダリングをやっているのは岐阜の方から教わったのが始まりですか？

【田中さん】

最初は、サマーセミナーに行つたときに覚え、岐阜のイベントではまったんです。それで四日市で出来る場所を探して行き始めたんです。そこでの出会いから結婚になったんです。つながりが広がっていくというんなことがあるなと思つています。

【坂井】

組合員一人一人のために考えていなかつたなつて思っています。自分たちがこうしたいっていうか、結構仲間や人のためになるうと思つていたし、組合もみんなのためになると思い入っていました。自分のためって考えていなかつたのが良くないし、組合入っていない人にも僕のこういう姿勢が組合に入るのがハードルが高



いって、思われたんじゃなしかつて思っています。僕もあまりおすすめできないし。

【支部】

それじゃ、まず、坂井君がおすすめできる組織にならなければいけないってことだね。

仕事みたいになつていたんだよね。組合活動が。

【坂井】

それがあつたなつて思いましたね。

イベントを知り合う場に
組合関係なく全員に声かけ

【おおばこ】

ひよこ会でもパートさんは結構組合に入っていない方が多いんですけど、入っていないパートさんも声をかけてイベントやると、その後、入つてもらつたんです。パートさんって時間がバラバラで、パートさんどうし「初めて会うわ」って方もみえるので「顔を合わせて知り合いになる場があるだけでも良かった」って声は聞きました。さっき言つてくれましたけど持ち方一つ、そこに女の人数なので菓子とお茶があれば喜んでくれるんで。喜びにつながるのが一つあると楽しいっていうイメージが出来て。次の行事のときに来て



もらつたり、「組合」っていうのを取っ払って、忘年会も全員に声をかけたりしていたので、楽しいって良いなつて、やっているしんどさもあつたんですけど、最後の笑顔とかを見ると「あ、良かったな」て終われるって、自分たちにも良いし、みんなにも良いなつて思っています。今、三つの保育園になつているので毎日過ごせる人と、昔は一緒だったけど離れているって方もいるので知らない人とも交流できますから。若い子だと全く知らないってこともあるし、四月に顔を合わせても次に会うのは夏の終わりなんてこともあつたんです。そういうのが組合を通して交流できるのは良いかなつて思うし、要求を聞くと、交流したいっていう声は上がつてくるので、そこは大事にしていきたいと感じています。

【支部】

ヒントを与えていただいたと思つています。自分の中でも工夫しながら「楽しい」って言うのが一番かなつて思うので意識しながら、楽しくやつていきたいと思つています。今日はありがとうございました。